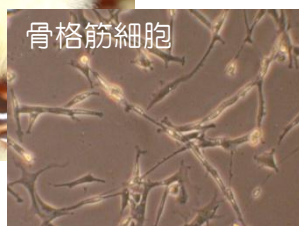


米ぬか油の孵化後早期飼料としての給与技術

目的と特徴

- 米ぬか油含有飼料を孵化直後のヒナに食べさせることにより、成長後の食肉重の改善と成長の効率化を実現しました。
- 大きな設備や特別な機械を必要とせず、3日齢以降は通常の飼育管理で効果を発揮します。
- 3日齢までの初生ヒナに対する飼料を変えるだけです。コストはほとんど変わりません。
- 出荷日齢が少なくとも1日は早くなることが予想され、飼料コスト削減になります。



ヒナに3日間トウモロコシのかわりに油脂含量の多い飼料用米あるいは米ぬか油2%含有飼料を給餌

↓
骨格筋細胞の分化を抑制し増殖が継続



筋肉量が多くなる能力を付加

- ↓
- 出荷時体重の増加
 - 出荷日齢の短縮 が期待されます

21日齢時に約60gの増体改善
(14日齢以前には増体は大きく変わらない)



出荷時には少なくとも約120gの改善



出荷が1日早まる(飼料代約20円/羽の節約)

成果

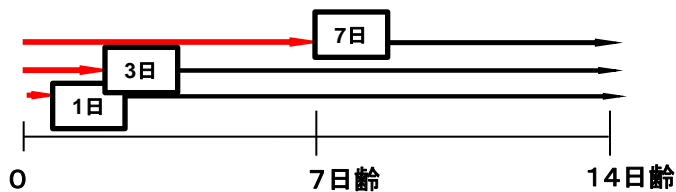
- 米ぬか油油脂成分(特に α トコトリエノール)は、骨格筋細胞の分化を抑制します。
- 米ぬか油2%含有飼料を初生ヒナに3日間餌付け飼料として与えると、21日齢時体重が増加します。

7日間米ぬか油含有飼料給与後の21日齢時の成績

(g/羽)	体重	胸肉	モモ肉
対照区	770.3±12.9	88.2±4.5	108.6±5.2
米ぬか油区	833.2±21.8	94.6±5.5	120.8±3.5

米ぬか油2%含有飼料をヒナに3～7日間給与し、その後は通常飼料を給与しても、**増体が大きく改善し**、食肉量も増加する

米ぬか油含有飼料の適切な給与期間

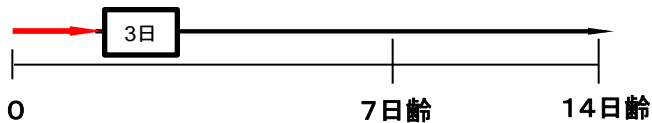


	対照(0日)	1日	3日	7日
14日齢体重(g)	365	372	393	391

米ぬか油含有飼料は3日間以上給与すると効果を発揮

巨大胚米などの油脂含量が高い品種を使うことで同様の効果が得られています。

米ぬか油含有飼料の適切な給与量



	対照(0)	2%	4%
14日齢体重(g)	379	417	383

米ぬか油は飼料中の油脂の2%を置換すると良い
(多く入れすぎても逆効果)

今後の改善点

- ・米ぬか油は劣化が早く、保存性を高める必要があります(劣化すると逆効果が出る)。
- ・出荷時まで現場試験により経済性を検証する必要があります。
- ・油脂含量の高い品種を用いた飼料の開発が必要です。

普及作物・家畜、普及対象

- ・水稻(米ぬか)、肉用鶏、全国

対象農家

- ・ブロイラー、地鶏などの肉用鶏農場・会社

その他

- ・本飼料を餌付け時から少なくとも3日間給餌することが必要です。